

JAグループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 6 9 号

【平成 26 年 10 月 3 日（金）発行】
発行：JAグループ宮城災害復興本部
編集：JA宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466
E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

1. 「JAグループ宮城 担い手経営体支援チーム」が発足。まず、沿岸 5 JA 支援
2. 営農再開へ、農林中金、JA 全農みやぎがフレコン計量器等を支援
3. 西川農相が仙台、亶理などの被災地視察
4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 37 次請求
5. 仙台で「気仙沼茶豆・アンジェレ大収穫祭」

1. 「JAグループ宮城 担い手経営体支援チーム」が発足。まず、沿岸 5 JA 支援

JAグループ宮城は 10 月 1 日、担い手経営体支援チームを発足させ、JA ビル宮城で発足式を行いました。被災した沿岸地域の農地復旧・営農再開と相まって、集落営農組織の法人設立の動きが加速化し、担い手層の経営規模が年拡大していることから、中央会、全農、全共連、農林中央金庫が一体となって、担い手経営体の所得確保・増大を支援していきます。期間は 2014 年度から 16 年度までの 3 カ年を目途とし当面 14 年度は、沿岸 5 JA（南三陸、いしのまき、仙台、名取岩沼、みやぎ亶理）を支援対象とします。



プレートを手にする石川会長と安齋チームリーダー

発足式では、チームリーダーを務める中央会営農農政部の安齋明修部長に、石川壽一会長からプレートが授与され、サブリーダーを務める全農営農企画部の小野芳浩次長が、担い手経営体の所得確保・増大に向けて奮闘することを宣誓しました。

同チームは 19 人体制で、専門家との顧問契約による現地相談会などを実施。県域配置営農相談支援員などが日常支援を行っていきます。支援は当面、①「JA 担い手育成支援実施方針」の策定②「地域営農ビジョン策定・実践」支援③支援する担い手経営体のリストアップと同行訪問によるニーズ把握と支援の具体化—に、重点を置きます。

石川会長は「JAグループが連携し、これまで以上に丁寧な指導を行っていききたい」と語りました。

2. 営農再開へ、農林中金、JA全農みやぎがフレコン計量器等を支援

東日本大震災後の営農再開を支援するため、農林中央金庫とJA全農みやぎはJAみやぎ亘理管内の被災生産者にフレコン計量器等の一部費用を助成、9月22日に贈呈式を行いました。導入した生産者、農林中金、全農みやぎなどから約70人が出席。生産者を代表し、鳥屋崎農場集団組合の片岡悟組合長に目録を贈りました。



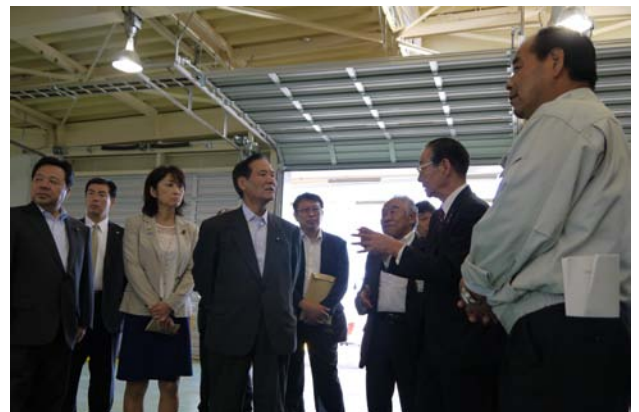
農林中金の後藤常務から目録を受け取る片岡組合長㊦

JAみやぎ亘理は、農林中央金庫と全農みやぎの支援の下、フレコン対応の計量器などを導入した生産者・集団53件に導入費用の一部を助成。今年産米の買い入れから、亘理町内の米倉庫3カ所でフレコンへの対応を始めます。既に対応していた山元町の倉庫1カ所を加え、計4カ所で対応します。

農林中金の後藤彰三常務は「国の復旧事業では行き届かない、既存のものにプラスした支援として、フレコン出荷設備の費用を助成した。作業の省力化を図り、効率的な営農で復興を後押ししたい」と語りました。

3. 西川農相が仙台、亘理などの被災地視察

第二次安倍政権の内閣改造で、農林水産大臣に就任した西川公也農相は9月13日、宮城県を訪れ、津波被害を受けた仙台市東部や亘理町の大規模イチゴ団地などを視察しました。東日本大震災から3年半が過ぎた被災地の現状について、西川農相は「関係者の努力で、もう一步、農地利用の高度化ができるところまでできた」と語り、引き続き支援に力を入れていくことを強調しました。視察には、佐藤英道、中川郁子の両政務官が同行。翌14日には、福島県を訪れました。



亘理町のイチゴ選果場で説明を聞く西川農相㊦

4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第37次請求

JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は9月24日に総会を開き、東電への第37次請求を1億5,600万円とすることを決め、9月30日に請求しました。

内訳は、廃用牛の価格下落等の損害が6,200万円、風評被害に伴う肉牛の損害が3,400万円、牧草の利用自粛等に係る損害が3,100万円など。

9月22日現在、同協議会の請求総額は321億8,300万円、受領総額は239億4,200万円で、請求対比74.4%となっています。

総会には東京電力東北補償相談センターの加藤正人所長らも出席。遅れている代替牧草等の支払いについて「2015年3月末までに支払えるように努力します」と語りました。

5. 仙台で「気仙沼茶豆・アンジェレ大収穫祭」

ＪＡ南三陸は９月１５日、「気仙沼茶豆・アンジェレ大収穫祭」を仙台市青葉区のＥＤＥＮ仙台「キリン一番搾りガーデン」で開きました。生産者の他、復興支援活動を展開するキリングループ、ＪＡ全農、全農みやぎの関係者など約１００人が参加。営農を再開した農地で収穫したエダマメ「気仙沼茶豆」や全農オリジナル品種のミニトマト「アンジェレ」を味わい、産地復活を祝いました。

キリングループは「復興応援キリン絆プロジェクト」の一環として、ＪＡグループと連携して被災農家への農機支援やブランド育成支援を展開しています。今回も会場準備、設営などに協力。全農も「アンジェレ」の供給などでイベントに協力しました。

ＪＡ南三陸の高橋正組合長は「『気仙沼茶豆』と『アンジェレ』の生産をさらに拡大し、地域農業の復興につなげたい」と、支援に感謝しました。同ＪＡでは２０１６年までに、「気仙沼茶豆」を１０畝以上、「アンジェレ」を１畝以上に作付けすることを目指しています。



「アンジェレとモッツアレラ」などのメニューが並んだ